

Kodak  
LICENSED PRODUCT

C M Y

KODAK Gray Scale

© The Tiffen Company, 2000



10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3

JAPAN



當時大日本年中行事大全卷二  
增補

二月

二月  
初卯 山八幡東清 山城國男山ああら石清水八幡宮と  
神社とみゑ神 應神天皇比咩大神 神功皇后清和天皇御  
宇自東觀久本八月天和國太安寺の沙門妙教豊前國宇  
休官ふま赤童く紳経河もまう奏向と經 男山鳩峰ふ  
効清波行教ハ武内宿祢の後胤此天皇と八幡天皇と号す  
る事未だ白の事ゆづる仍て八幡と号ととて一統小天皇  
の御廟ハ河内之誓用ふつづく宇作ふ初清有て後和氣清名

諸國年中行事

卷二

小使（おとし）或（もろ）是（そなへ）譽（ほめ）因（いん）候（まつ）たと仰（あお）ひも（ひも）八幡（はちまん）と号（くわ）すに今月戌の別神  
馬（ま）馬（ま）山（さん） 大原社（おほはらしゃ）春月（はるづき）祭（まつり）山隸國（さんりくに）山隸郡（さんりぐん）山隸（さんり）社領十二石  
坐（すわ）神（かみ）春月（はるづき）明神（めいじん）社（しゃ）古南教（こなんきょう）も（も）教（きょう）と山隸（さんり）の長圓（ながまつら）ふ近（ちか）此  
小田路（おだじゆ）の吉日（よきひ）へ帝廟（ていびう）小遠（ちい）くと后妃夫人（こうひふじん）の吉宿（よししゆ）便（べん）居（ゐ）  
とて仁明天皇（じんめいてう）嘉祥（かじょう）ニ年（とねり）王城（わわい）守後（しゆご）の山隸國院（さんりくいん）た府（ふ）を  
嗣（つぐ）兄（いにしお）勅（てつ）清仁壽元年二月二日乙卯始（はじ）て當社（とうしゃ）の方（ほう）を行き  
迎（むか）衛（え）使（し）上卿（じょうけい）辨（べん）内侍（ないし）と立（たつ）て（と）まう

初午

① 山 稲荷（いのわ）初午年清 山城國紀伊郡（やましろくにいぐん）より至舞  
み度（みどり） 倉稻魂（くらいのこなま）社（しゃ） 王祖神（おうそじん） 大山祇女（だいさんぎめの） 沢瀧神（さわりじん） 四甲  
社（しゃ） 社祭百石（ひゃくせき） 乞常原ト定云辰巳の方（ほう）にあり

金稻魂（きんのこなま）の靈（れい）故（ゆゑ）なりまは神（かみ）ハ百穀（ひゃくこく）と經（つよ）一（いつ）丈（じょう）の思  
ふ名付（なまづけ）まう神代（じんだい）の者（もの）うけ宗（むね）しもももくべ思（おも）この事  
に附（つき）とす年（とねり）之（の）令（れい）四十三代（よんじゅうさんだい）元明天皇（じんめいてう）二月十日和午の日  
と吉（よし）ウラ御殿（みやこ）と造（つくり）延喜八年（えんき八年）賜太政大臣處原源  
平（ひら）ニテの社祭被造（ひぞう）ありとす（す）也（よ）ひよ（ひよ）あり  
後醍醐帝（ごだいごだい）永享十年社（しゃ）と今（いま）の化（か）ふ迷（まつ）す爲（ため）これのち  
五石（ごせき） 稲荷（いのわ）の是地（ぜぢ）生作（おうさく）小原田社（こはらたしゃ）ありと名（な）の事（こと）社祭の稻母掌（いのめのう）  
五石（ごせき）と今（いま）も稻母（いのめ）と是（ま）す一後（いのち）弘治太政大臣處原源  
平（ひら）ニテ造（つくり）延喜九年（えんき九年）御殿（みやこ）と造（つくり）御殿（みやこ）と是（ま）と  
斯（この）モ四作（よんさく）ハ初相（はじあい）小原田有（あり）て稻母（いのめ）追（お）加（く）稻母（いのめ）と年代合（あわせ）を  
此神（このかみ）ニ奉（まつ）まに靈（れい）故（ゆゑ）時（とき）ハ紀年（きねん）の月（つき）を以（もと）て毎年今  
月（つき）主脩（しゆしょ）辟（ひら）主脩（ひら）人（ひと）上偶（じょうぐ）の稻布（いのぬい）候（まつ）終（まつ）ざと當（あわせ）を主修（ひら）候（まつ）

几董

二ノ条

大江元

世俗二月一日引

花火了命

おひで

ひづく令子とす

叫び手捷とあべ

業すふ

生月覧日

二月一日出野田  
中採蓬向門前  
以參<sup>大</sup>迎富<sup>ト</sup>云  
又二月初便<sup>ト</sup>祭  
兩脚三里絕骨對  
免各七壯以洩毒<sup>アキラカ</sup>  
氣至夏即無脚<sup>アキラカ</sup>  
氣衝心之患<sup>アキラカ</sup>



主と  
ありしも

官文



京東福寺藏法印  
新編著者不詳

く此れか御清 江忠國稿の清に戸上せにあり其の  
道灌の御清 江奥因山稿行矣 ○ 其外三都及ひ諸國

世大士の像、うつと是生もよろこひ基と遙りて見せしめ  
ま人初基和泉國ゆ。今入紫十丈をふ遇す  
其山川震動。神龍現れ。故もの像と後わらそ初基  
小ち又掌と鳴切く共よし。佛はも後の持とあそ初基  
是と持して奏へ。信ゆ。而も内達  
立あり。故ふ二月和午とみて今もとと清人車上解と實もと  
矣とす。神像統の掌は金剛經義統。ホ音代の美宝まく無仁の紅毛  
也。小ち珍宝ねと抱く。毛利山。毎朝北と遙る。代統の事もと已説  
虎ノ  
後す。  
**(名)**觀音巻取。參河國保飯助小松屋あり。清人山上  
の隈。毛とちく馬。うちく毛。ハ病馬。毛らをもと  
上  
赤日尾  
熱田鳥祭。尾張國熱田社。有り。

甫日春日大嘗祭 大和國休之助そののすあり 河 牧家社まきやしや免  
祭河内國河内縣こうちにあり 安 嵐島猿度そらしまのさるどり妻め妾めら國宮鳩  
ふわう山ふわうさんに開ひらかく 同 猿さるに開ひらかず ふわう今日けふより続つづかと發

中酉日山 梅津うめづ多必溝たひ山城國やまと高野郡たかの東梅津村ひがしまつむらふわう町まち毎  
大父おやと燒竹やけたけ養なと渡わたし危あぶ瘡麻疹あぶらの禁きん厭あいと爲なと

上丁日內釋奠しれどん九子十哲こじゆうせつと記きる今いまの傳伝

彼岸かれん七箇日しきのうち諸寺院よしやんふ告ごて佛支作善ぶつしととす 京 和中  
亥い一月いちげつ七日しち廿二日にじ小高こだか峯みね嶺りょう新迎如來しんえい開帳かいちょう年別ねんべつ山さんま  
如堂開帳かいちょう東ひがし靈山りょうさん踊躍おどよ確会かく金きん弘  
炳四条坊門油路ゆじゆ西にしふわう紫雲しいうん山極さんきくと早はやす冥基室めいきしつ也

上人じょうじん御影堂踊躍おひきどうおどよ金きん併あわ午ご刻立象榜じぞうばうの西にしふわう新善光しんぜんこうと  
と早はやと時宗高寺おもろいの香香名かかめととまると御影堂榜おひきどうばうととる

同 實父おじい上人じょうじん云今爾いま山科さんくわ本願寺ほんがん御坊ごぼうととくと人ひととす

承うけある年九世緒光兼えいこう大承だいしゆう五年二月二日化かモ 同 天正寺てんじ六時  
堂修正金じゆう酉酉刻とき聖同せいとうまで青葉せいはあり 安 吉よしや解配けはい和良吉  
せ藏王ざわうおう槐けい況きようと氣きき猪いのき人ひと小解おけいととまた又また山中寺さんちゅう寺てらに  
配はいる寺てらを金峯きんぽう山寺さん山さんと圓軸えんじく山さんとと又また日奉ひん七しちも山さんの主しゆ  
うううう同じゆう二月堂行法とうぎゆう令自じもう十四日じゅうよを二七日じゅうしち大和國ひがしこく  
南都東大寺なんとくとうだいあり 日月索院じゆくそいんと早はやす本尊ほんそん十一面觀世音くわんぜいん秘ひれ  
ひひ攝せき足難波あしづなは浦うら実忠じつちゆう和尚がく淨きよふよく得えままる今日きのう

より東大寺の僧とあり **和** 西条立花七日も **和** 善禪師  
寺會式 南方西条砂村もあり 大寺の其へ寺領三百石を  
子孫師如来尚寺ふ佛是不<sup>レ</sup> **伊** 佛光寺錄撮 伴賀は  
山田千戸村もあり堂内より経を撤て行人ふらる **伊** 鬼押の  
神変夜 伊勢國鈴鹿郡津ふあり東日山觀音寺と号す鬼  
二人を以て各々を追ひ **傍** 住吉埴使 今日住吉の神人大和畠  
傍山ふす玉と取く往土をゆり四日不<sup>レ</sup>此土を以て平枕と造る  
五日御瓶用の供供六日御供と来て載く畠傍山へか鳥山の上  
の山きり八本より南一里ふありちふと又はと山に明神と云ふ神  
功皇后

- 〔二日〕 **京** 祐農新年を申す割 **傍** 住吉新年を **同** 昆  
陽寺行基を 捨律圓河達弘ふあり 崑崙山と号す
- 〔三日〕 **京** 百万遍數珠拜尼 **傍** 真面二ノ眉
- 〔四日〕 **京** 海盐を洛東松原の東六波羅密うそ引と  
○ 天王寺芥田坊法事 未割
- 〔五日〕 **同** 東福寺五大堂と火除のしとを門のあを  
是と清て門戸小貼を大祓疫病の難と除くより人のま  
考とあり出の所とひま豆の土の其をぬのひまびと其をも  
るの地とつゝ是と民多くて神社の牛王もけんうすり牛  
王とすへ御とて王のよれ一晝いとの牛とせむる晝はくゑひ

奴婢の出立と云ふ

年二月二日二月三日

絶えりとて

作務衣をそひ

二月の夜よみせう

九月十九日と

すまの終と

又二月二日

あのか

かのと

おが月と

やまとねの

山の月と

くらむと

ゆめと

かすと

かすと

かすと

かすと

かすと

かすと

かすと

かすと



出代の年と

芝村

出代の年と

麦林

行服のかい

月九



其の上に  
生土の上に  
火を燃え  
て置くと  
やがて火  
は消え  
て土の上  
に灰が残る

六日山ハ嘆仲哀天皇因忌已刻京大德ちだくを歎氣あく新達しんたつ

天坂天王ち太子堂修二丁 酒井青菜 伊  
伊勢肉足初年あふ  
大原梶井宮二月吉行法 京 建仁寺後行出

八日 大夜 菩寺修三毛 酒胡 天王ちあう 月 原村天王堂 摂津

因ひ上郡より繻作を仰ぐる物の日と付て  
九日 祓邊堂遺教會辰未刻千車の北立込にあらず瑞應山大  
報恩寺と号又キヤウ御迎堂とす奉子御迦の事寺百石余  
用明天皇の御子刺插間中納言光隆卿任居の代今も  
堂の奥久原秀衡建立に珠上人と清て中興と  
を秀衡工洛のため車輪を存す寺内もあり今りま  
十日まで智積院の石徳妙く傳て遠慕經上あらむ毫  
の前よりあらまくは良徳を存有す○諸寺遺教経  
山 大通ち達教經已付(同) 泉涌ち舍利開帳十五日モ  
は 船社五穀之寧(同) 沢多坐天神多江戸坐多  
は

譜年中行事

卷二

あふあうを天神 天神坐六面足懸根の二事より 佐  
神事 唐伏ふ例年今後風雨烈しく其事へ主の根  
石多あうことを神軍とす

十日 京 玉條天神 恩賴坐 松原西御院にあつは 北山  
鹿苑院 天祚堂 唐苑院毛田社人射と射る 同 賀茂氏人  
饗應 氐人あらわす家ふ別てう今明り到處方を參見

14)

十一日 山 大原懺法  
十二日 京 泉涌寺送教經十五日を

十三日 金

元原住吉坐 摂津國若奈郡 はうを神

住吉門作 用 水上坐 因防國吉发那ニテ水上山ふあり  
十四日 江 深州西岸寺蓮如忌 今明日 金 二月考 大瓶松  
井水取大瓶松の七日よりを度鬼附不候井に向く  
若狭くとニ度呼ハ調井も山涌出うと源ノ牛王  
城跡とそと二月考の牛王とすれ若狭國鵠の歎も

十五日

金

諸寺涅槃を渡り承迎如來脚峯七十九二月十  
八日沙羅叢樹のうち入滅の像と画きて諸寺度に掲く  
俗家霊餌豆と聲乞と供と山東福寺涅槃像被八方飛  
典句筆紙本無承成十五年六月とあり至治解とす

そと京師換廟紙と云々○  
大雲院涅槃を申列京極西  
系のあふあり釈迦の本尊の像、車ふあく本堂ふ近を  
○淨福寺涅槃を一条千本の東ふあり京師涅槃像  
の名画併えち新坊の像十四日の作四条裏寺町光嚴寺の像  
表華筆、京極山の像思恭年西岡長法寺の像十六日の作  
二京川塔善導寺ふ三十二相の像十六羅漢の像  
掲く○報恩寺舍利用法小川のあ上立堀の北ふあり○山城  
峨柱塔太西列新迦堂をあてて大殿ニテ所て建て  
山崎宝寺をす釈迦并び釈基弘法の像用法○法寺  
舍利去○山梅尾四度の構式洛北梅が岬をす山崎寺

江増上寺涅槃を江戸多ふあり其ケ佛寺院涅槃を  
天王寺六門堂涅槃を舞樂を外法寺院涅槃を  
多田院楳付山河邊那多田庄ふあり舞尾山は舞三昧  
寺と号と寺外五百石源滿仲景朝源賴光賴信賴義  
翁家と名す○白福寺常樂を南朝にあり○鹿児  
南都春日社と申樂○度山楳院象豊前豊後筑  
前三國小幡根せり山さう社外三百石安井三千北岳大  
忠骨寺中岳へ伊弉冉を苗岳へ伊弉若寺令のち升  
うち山上六十二町をす十の各口十九の窟ありその各口玉  
谷とす捨現垂跡の雪地ヨリ泉涌出と塔廻りを飲

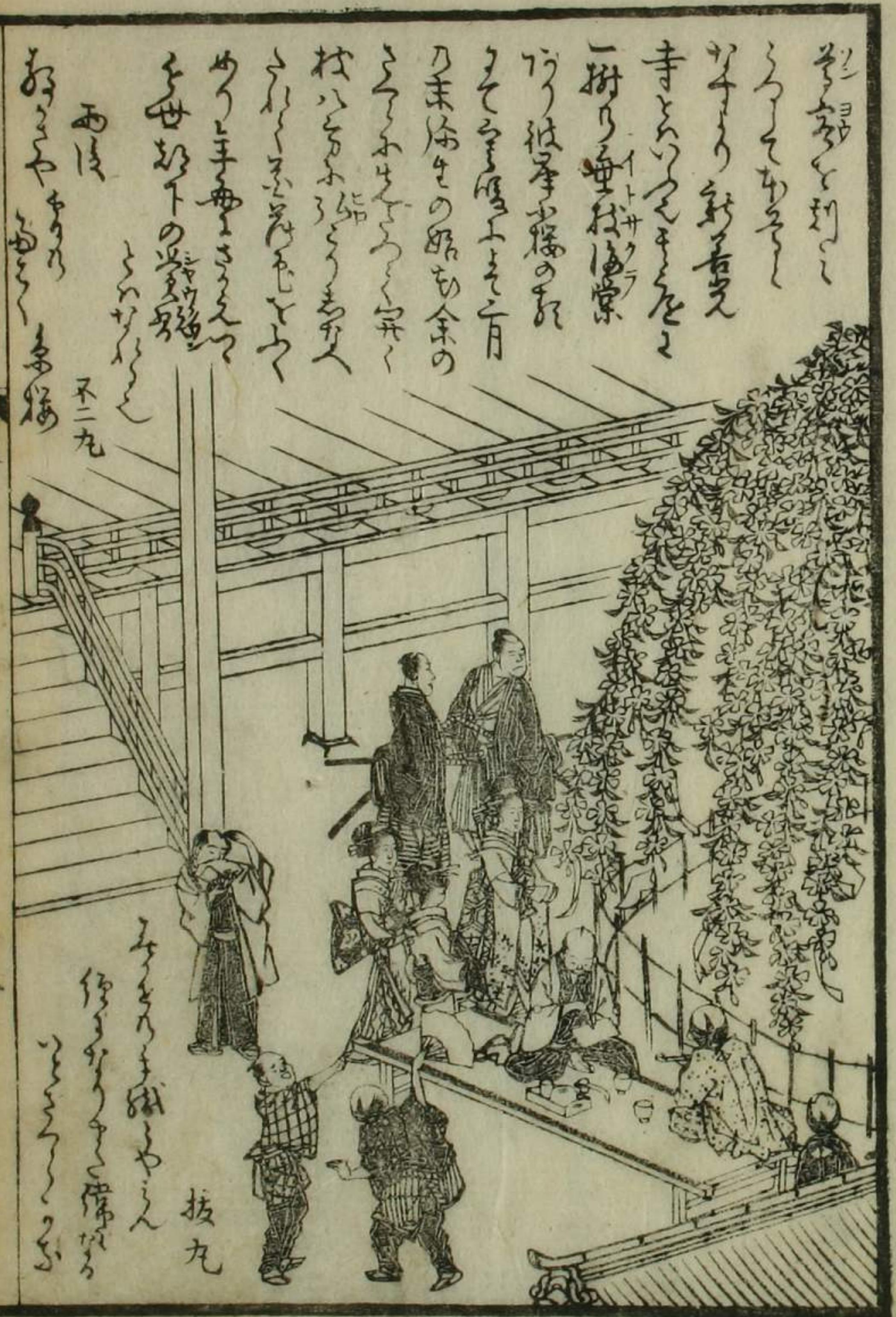
ハ諸翁と活ととて三歳ハ鼎のみく時く三井義政を堂作  
大室のとれ八角の大水桶ふむつ六百五十六桶あり

十六日 京 御歎堂誦經会佛立糸榜の西より 同 東滿ち  
日達上人縁用帳系地今御川北二町ふあり故林宗日秀  
上人の廟基日達上人の縁へ小原山の墓葬れ土中不ほ無  
通の事うづ煙く塚くは像と漫く幽寺よ納じ同大雲  
院貞安寺町に系のあふわうけ寺旧ニ象馬丸わあり  
二條殿宅地の旧跡と其處ふ浦あり放て乾池山と号す  
中興貞安上人天正七年五月安主論小猪信長公歿竟  
あつゝ持ふの圓扇と楊と今ふ幽寺よあり日十年六月

二日 信長公住處の明智光秀が為め討せられひ一後  
にえりやくあひゆきト方の建主ト太雲院と  
この君冥福の為信忠と自殺の地と寺跡と  
号を 其地へ鳥居一束も陽光院の本院門跡の北より海ふるく  
のう例ふ小引あら今城壁の18年を以て吉公の命ふみて  
社地ふらうて小池の社とす  
寺と今の大移動をあらふ信長住處の墓地 同 清聚菴  
見る金綾小路の南ふあり今曉盲人の歎希十老及び検校  
白當城方市房扇ひまうち督修と掲げ樓の造形と  
名を立つて後平家とかる今日向當空室に至ると云と候  
そと積塔とてお祝いの事と云ふ

十七日 山 泉涌寺中善光寺用帳

世間傍方の事す  
みをうなづく者もる  
若どもたゞいだがよ  
りみてあゆま襷と  
もくともかわせ物  
さうらまむりやうの  
いはうとくとくとく  
洛下其本のを由ふ  
新奇せちと  
珍すちこ寺  
う一さん時家  
うて世俗の教訓  
と呼ぶのをより  
と一すへゆきうそ  
信ひ告ぬきの



諸國年中行事 卷二

十三

十八日 山 大照山 駿齋令 稲馬の北五里別所村小あり大照山  
峰定寺と号すと寛平法皇御草創

十九日 京 園幡堂後供類 ○ 四宗寺 宝勝令廿三日と

○ 見寄 天王ちの公人俊吉の浦み行く見と捨せ二十疋  
毛糸の用とす

二十日 既 纏間至 綾河國安部郡府中にありかず木花  
咲耶姫相殿天津彦天瓊杵子皆天神命延長年中  
勅使新宿郷社領千三百二十石木官領八百六十七石を以及  
ひ斧馬あす

廿一日 山 光明峯寺般下道家公忌 東福寺にて修飾 京兩

奉獻寺を子ま 今宿日西未刻東申刻 廿二日酉已刻東辰刻 江 下谷繪馬奉  
下各にあり 陽年 子寅午申戌年

廿二日 山 えまくらうるく えまくらうるく 太子會 田 六角堂を子ま 田 蓮臺

寺を子ま 田 下寺町を子ま 田 中條五条のものあり  
○ 倍寺院を子ま 山 賀茂ねの下家後ち前院御忌 上加賀  
城下家一代多きの院のを子ま修飾 田 天王寺を子ま 田  
石森甚うて伶人の舟あす酉刻ある堂うて法事考馬なり  
法事の次舟出仕の役人職掌の行列陞坐まけめ終日伶人  
の舟あり甚式者重う昔へせ一日うち三日を執り百舟あ  
れ舟を経度有く今へ一日の往來とがゆる舟あく毎月三十

廿四日 京 德正寺 蓮如上人傳記  
廿五日 伏見  
廿六日 深草西岸寺 連如忌  
廿七日 伏見街通稻荷  
廿八日 長福寺  
廿九日 洛西梅津  
三十日 大梅山  
廿一、廿二日 大梅山と号す  
寺数三百六十石

江  
ほれ湖夕風波をとせまの八景の名とて立今に  
名はるよハ構あう

廿五日 京 北野宗種御供酉刻北野神社社代五百八十石坐  
神大自在天神 菅丞相の子大東間中將殿御嫡子西間吉祥女  
北野秀方せ菅丞相姓是原名へ道ま字三足善卿御子右大臣  
小叙へ太將と兼昌光四年尤大戸時平なれ修トモトモ  
築紫光院宇房みた近へ延喜三年二月廿五日薨とえ慶ま三  
年七月吉良左京七条坊門の婢子文子と行ト北野太近  
馬場に雪舟と通ひて神経ゆう村上天皇と天智元年か  
右邊馬場ふ雪舟と通ひて義經は九年近江國比良社の絲

宜良種ふ化宣あり大内の北せか一夜ふ千本のねと生  
せん其不ま社を建く天満天神と崇ぶてもむろ民種北  
地羽日寺の僧最珍と左京の文子と曰くせよ雲山社が造  
立すきる天徳三年右大臣源原師輔公宝殿と造り終ひ  
神武日く新境内と年くに源く文子が丈仁を入る  
孫代仁左支と号し師と文子と称して巫とする今夜西  
の馬く御供と献うそく米種の花と稱あふ米種の内  
供くつる江 粿町天神と名付江戸 粿町みらう今日脚自  
画の多影用帳 河 通明寺天満宮の像用帳 河内國志  
紀郡土作村ふあう奉手十一面觀音ちく外百七十石  
家

の比丘尼ちかう推古天皇の勅歎聖德を厚め用基土作  
連八鴻土作里に精舍を修造と立教ち坐經と法内理  
一とく木棟樹生を今其室を掠て中興の住職多奇丘  
ハ菅原是善々の妹菅公の伯母うう公な近の多奇御射  
面あくべき為め當寺に入とて後後別を情く絶へ一が  
嘆ふ鷄のを宣多奇菅公  
ソクを別とソクを多のきくと前里のはえも多と隊  
あいとく今び累ふ鷄と畜と畜夫と加世ふ犯多とて  
此地に御社は建の自家の本像と幼像とつるう  
元 宰府天神奈鬼布國宰府すあり國主す二千石と寄

○ 雜市 今日より三月一日と雜人取と店舗締りて  
京昨ハに像又東の東江戸へ中橋尾張町一丁や十軒居  
務町に丁め大坂へ御堂前駅北町主修橋傍の地小町と半  
廿八日 京 利休忌 大徳寺聚光院モ節度利其御承行  
家小名義利休居士俗名千ち郎即宗易拵奉行と号  
系通の中止す(同)本滿寺歎法

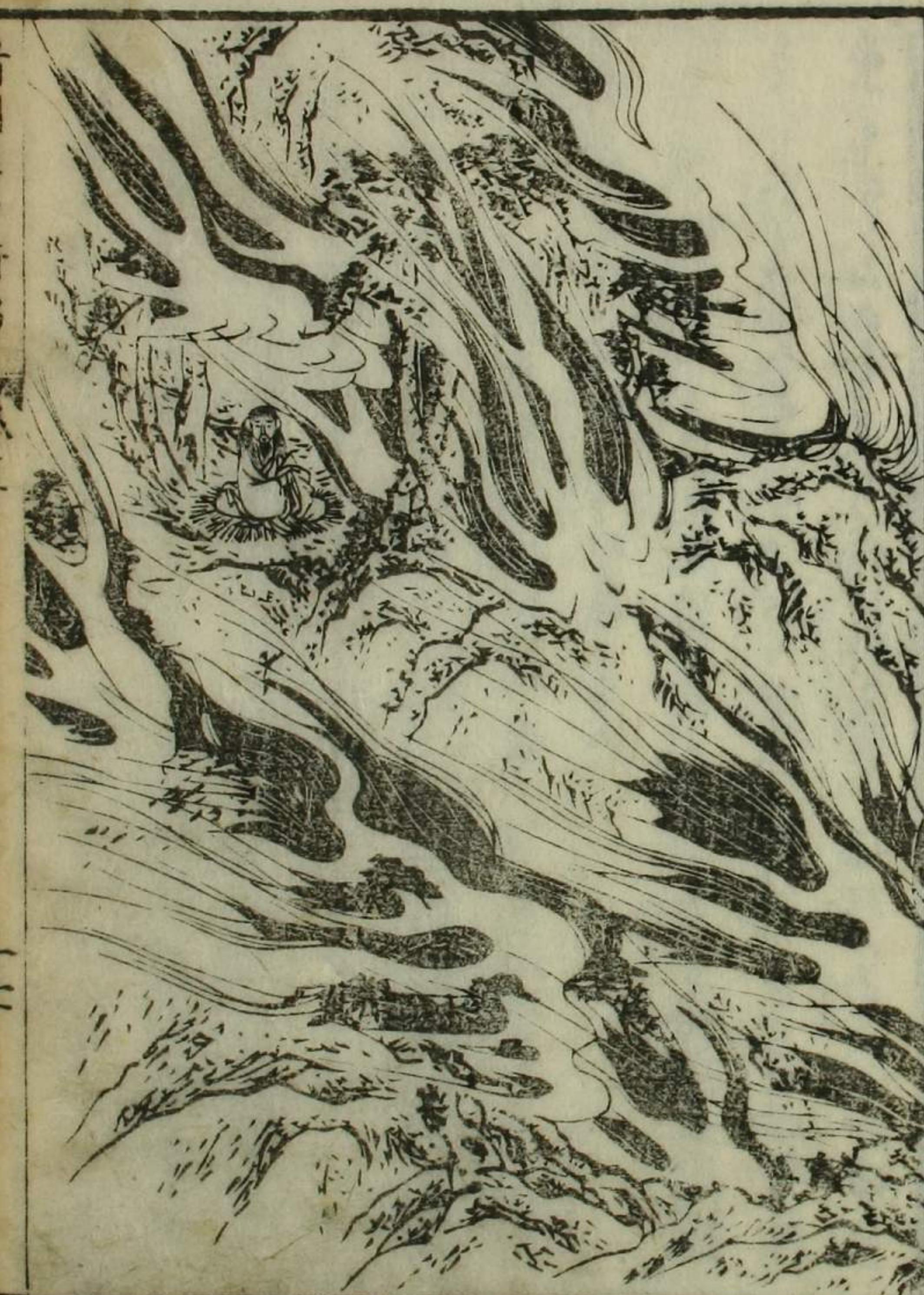
三月

中旬 山 松尾御出 午前午刻 七月四酉の日神事社あり  
廿四 大津ニ尾明神至 近江國後醍醐寺三井ち南院の後醍醐社

の内なり(同)水尾明神祭 旧國主曲私にあつて御一石  
猿田彦命天洞女命 巳日 俗 在御門家主日用被内修行  
中午 京 稲荷御出 上午 おれ伏見街道免士金紙油  
少ぬのち旅所入御 (山) 八幡除時祭 天正八年平ね  
門か連の轄祭賽なり 近江中絶せしと廢まると起く後  
ろ昇平の御功こそ文化十年より再興あくと陽年より  
之勅使兼人陪從八幡不主事あり

酉日 (信) 伊勢守明神祭(上西) 信濃國源守那ふあり上  
下の両社なり其間三里を隔てて源守那ふを御健御名命  
社社千石余下源守那神下照姫命社社立百石天孫神

三月三日と漢土スル裏食  
と称スルをあへしテ晋文公の  
臣孫子シラフ子チ叔シ良ヨウと  
て山ヒラに處スル文スルまスルア  
ミスル石シ川カワとスルも更スル山  
らす太公タクがりスル山ヒラと娘ムカシハ  
子チ推シうスルすテ也シとスル命マサニら  
命マサニて山ヒラと燒スルもスル子チ推シさ  
くふかスルて山ヒラと燒スルもスルと  
えスルとスル悔スルもスルと  
えスルとスル悔スルもスルと  
えスルとスル悔スルもスルと  
とも謂楚歲時記シテキ年イニ紀麗  
ちスルみはすスルとスルとスルとスルとスル



信のとき、邊津名命、後りて、經津主木破作としと、  
シ今後務め、後より坂上田村丸社と御送す  
今日、魚をひく所の数七十、めぐれ、魚へ追ひ、  
必ず、七十枚、あつて、経済せ、不思議の一つたり。

朔日 ① 京 宝蔵寺全利禰帳辰申の刻 ② 京 委城秋山縣  
兵庫ありとて、極の下付席とく。

三日 ④ 雜合ニ引手内致の内致とあつて、本州仙納去田路  
多と算す難いおとと、浮きる ③ 京 加賀郡北平 ⑤ 西江、鷲  
東山が、兵のやうあり ⑥ 韶永奈法禁あり ⑦ 丹波奈

治此布系とあり ⑧ 七東粟屋傳業 ⑨ 天つもと大手書建  
立と御吉宗 ⑩ 然井松原家業 桃澤國平也とあり  
⑪ 壺井家、肩はをかみぬあり、多井平、八幡家 ⑫ 畠  
櫻の浪千 ⑬ 細吉浪千 ⑭ 不山家、通ひは、篠ノ瀬  
あり、不守の法也二十八、前明作 ⑮ 粟津家と、御  
湯屋歌造の西とあり ⑯ 竹生傳業、紫邊、深井  
御湖中、あり、竹生傳業と、縁ふあらぬと、繩と、繩  
○ 佐佐次石井、佐佐次、和ちの、傳業と、繩と、繩と、  
御干の、御海、うみと、ねく取る。○ 沖野の千取經  
十、野と大和國域と致すあり ○ 粟屋家、紅葉木と、御

とありて作がれ而やは作大を乞ふ事と力と號まひ是  
もあらんと察うるを定めし歎口屋の定めを攘ん  
て禁歎の仕とすとあらばと婦人の事と教ひます。とど  
男女の仕とす。  
○慶事祭 捕丁は飾舞歌をうる  
作紙室とす。御王室天年又年又年又年又年又年  
國ハ故の今は祇里をあわせます。

五日  
○七重表は敷山の林原一重も村森よも村教里村  
能多も村よも村山鶴村よも村のよも村よも村の  
神無の神無のよも田園の中と接ひ不眞切ともも村修業  
あわふ紙表を立て競馬となす。  
○嵯峨大念佛

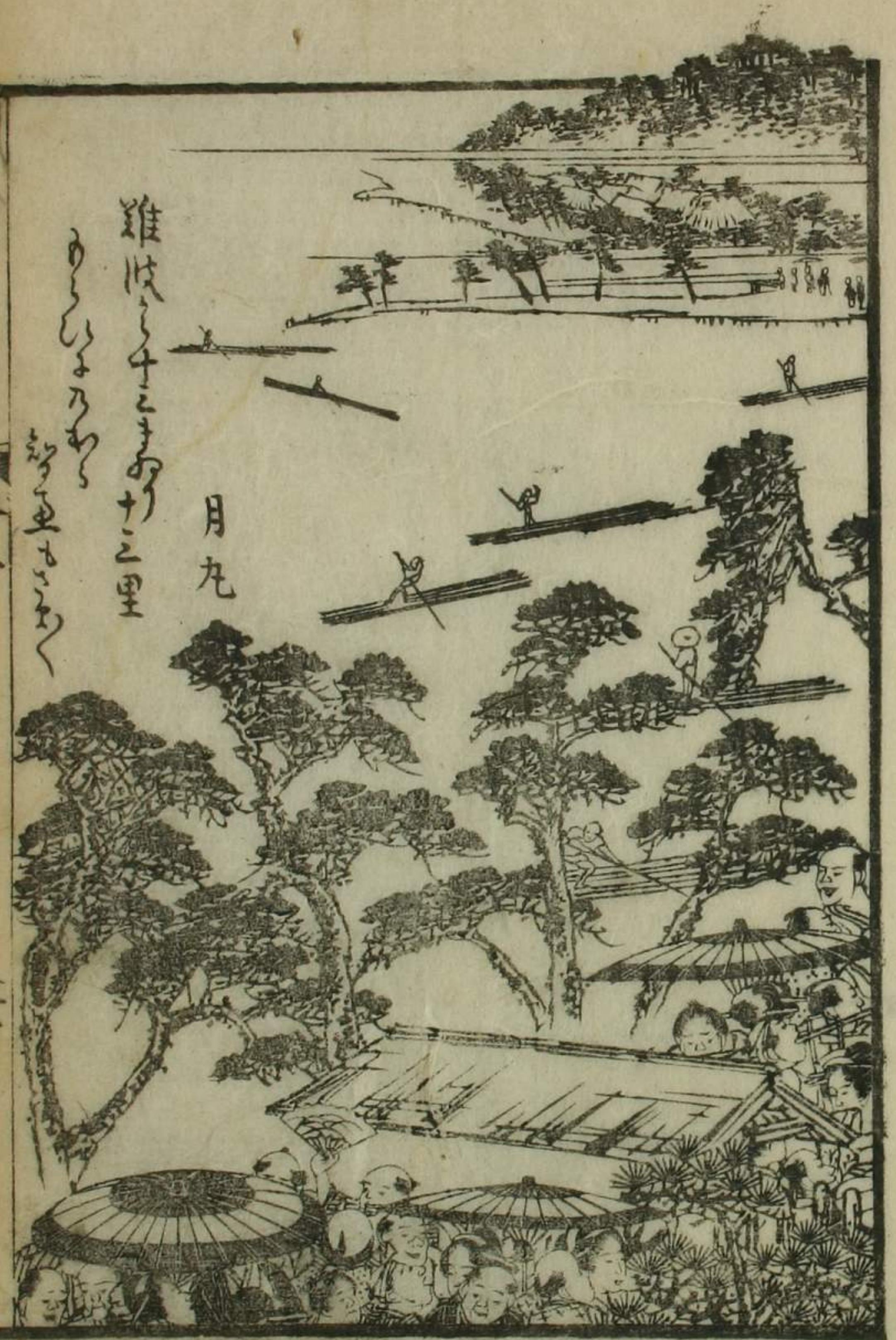
諸侯は済すとあります十一月十二日十三日十四日十五日十六日  
大和也むお猪毛とあります。あらわすとあります。和東大寺華  
教院もあらわすとあります。又名大和教院もあらわす。又令光明院大  
度圓もあらわす。又城大寺又恒光院也教院も又國分寺と号すも  
於一千五百十一石半余八家急急と云ふ者をとひます。又  
すの段やめのの後をすとあります大佛と云ふ。佛院聖武  
天皇の御朝初め天平十九年。御院は紫青色。御院  
経と造り。あらわすとあります。大佛院。北十九丈。高  
三丈の高大。上層は五層。下層は五層。後向は室。通称

乃ひ後家房を源と勅へ再建あり。山親西帝永祿十年  
ね水澤ふくを秀がたてふかく。因縁し大ひの山致達あつ  
高國の山又山田ひ安富納と拂くことと神ふあらまを  
仏のまわく。般若く雨あく連て。九百二十三年  
時ふ本多の傍邊に院立す。再興の志終と發一真言  
五年新居あらま室ふ六年大殿が納す。

八日 壱 佐古大章今

九日 京 水尾矣 山城國高野院あり。又作井和天宮  
京 立事も冥ひとすと少せす。奥室ひとすす。開臺  
ノ像と人形を供す。

十日 京 安政日未下午の刻 有上野村主翁梅ヶ谷村園幸村  
河と村より赤松と枝アリ。老病獨どふへ。火難被とり  
夙夜金とねせアリ。ひなたと難しこれをえす。宿す川口村  
村の山底へ是もとせよやう。京 令旅はせも。幸翁山の  
墓もあらま。其の後國祐寺と号む。又二百尺不益徳王宮  
の山下八幡宮の社也。やうく元仁宗の御事割和久の屋敷  
造立す。天長二年を晦ふる。中興文主と人法主と再興  
山山城矣。山城雖も八幡神也。虎と城し別名山城ふ  
あり。其の跡八幡宮也。御山も小峰寺の跡也。其ふ止りま  
十日 ○ えれゑは山城矣。あらまの山城也。二十八



社の内木鳴の神社と号す。神天照坐御魂神。境内三面の  
石を井水中に  
うり老人考。山。井出水。山城紀伊郡もあり。同。神童寺。山  
居良那。うり北吉村。とらふ。山林勝る神。

十二日 京。永觀堂。其通す。山。西山西雲光明寺。若  
年。滿年。し別郡。れあり。京。智恩院。善樂院。小松谷  
山林寺。百万遍。其外。二都。年か家長。年。忌。同。植繁堂。山  
得度。金。八。と。粟田。よ。親。齋。善。入。利。安。制。誓。と。以て  
聖人の像。五種。了。故。ふ。名。く。同。雙林寺。至。山。色。盡。の  
碑。年。墨。山。今。山。法。教。山。本。禮。彌。備。今。明。月。日。吉。八。王。年の  
お。殿。そ。執。行。持。と。教。高。祖。東。脩。今。明。日。持。及。鳴。上。郡。す。あ。

十三日 **言** 山。松尾。ち。神樂。已。前。京。長傳堂。後。白河。帝。御。  
辰。刻。又。東。下。寺。町。あ。寺。代。二十石。後。白河。法。室。御。建。立。御  
宸。殿。う。う。同。大。佛。法。院。同。辰。刻。運。華。王。院。三。三。間。堂。後  
白。河。院。の。御。紙。寺。代。十。石。御。像。及。之。御。後。法。經。院。を  
有。る。空。歲。善。徳。十三。界。ふ。な。ま。る。男。女。見。あ。徳。十。れ。ば  
福。徳。智。慧。成。徳。と。群。多。と。徳。人。古。十。二。色。の。事。あ。す。と。歎。る  
と。と。種。く。の。狂。言。成。う。と。桶。取。核。大。は。山。う。ん。ど。凡。廿。九。事。と。年  
増。痛。あ。う。年。割。り。廿。百。れ。う。れ。り。と。又。條。傍。門。大。官。の。西。心。済

先院壬生寺又寛智寺と又小三井寺と移き寺社二十  
六石をもむ地蔵菩薩種後天をの御宇艦裏和尚の開基  
高寺小僧まのぼり。⑩了徳寺蓮如工人を今月日午別後而  
人傳く後々作とみ。⑪了徳寺蓮如工人を今月日午別後而  
鳴滝にあり。⑫百万遍若遊する。⑬妙傳寺岡山尼三  
系新地からう同基日亥工人法無宗山。諸國齋翁忌  
清涼寺勤く

十五日 京本圓寺立像秋迦用帳末刻伊豆國住東崎の  
海庵もう歎死の後。⑭入江御所御開帳。⑮三寶院妙見  
坐以修村があり。⑯和本津洋簡瑞寺金式相岳郡木は  
山。⑰山崎火の頭。⑱梅若志ほテ隅田川ふあり

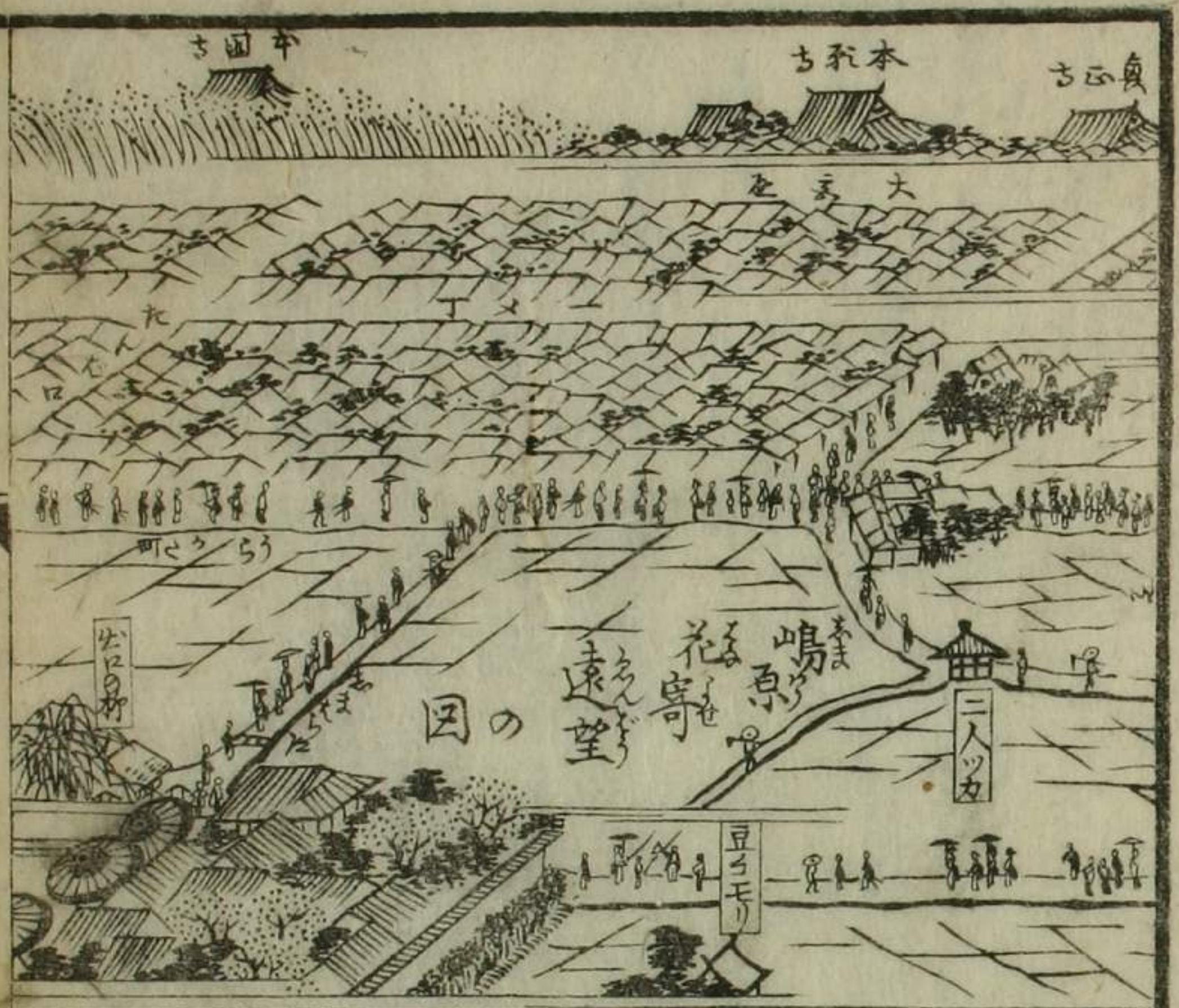
今日大念佛會あり吉岡少將の子梅若人高志向  
此化か死と人情く様と龜く梅若深とつて寺門木  
母寺と号と又神子死く山王控殿と号す。⑲中山寺毎  
年金事令自ら提携圓河を教すあり奉書十一面觀音聖德  
ある建立西園三十三所の其一なり。⑳懇持寺毎經廿万と  
は圓弓下殿扁印のあわあうキモ。祝世壽宇多天皇の御宇  
御恩をも房建立西園三十三所の其一なりと毎經ハ法事  
安樂の聖美がちふ修すあり。㉑比良をふ近に圓成堂取  
あらうをあ作能樂天神南北良山王十経作あわ松村至昇  
八幡北小室村十経作天神。㉒岩嶋嶋會安慶國祐伯郡

平一ま  
安島あよりを神市杵寺坐田心那瑞澤社社代平不  
天照大神素盞烏尊と八坂瓊の曲玉を以て御子を克  
化りと称さう推古天皇の御宇坐ゆれ化和の石是が安島  
市松岩水神坐ゆる神号を以て名を移入高社へ  
後山傍く桑樹繁茂あり海水湖右に松原たる  
やうやうゆの方に清水源を市内洗井とし漸社三所并  
の旁ふ南北三十三丈東西二十五間の四廊あり満次回廊  
北坂あると侵して私そ作ヒテ千波八十町幅の白砂とも  
平湖三経系の其一も

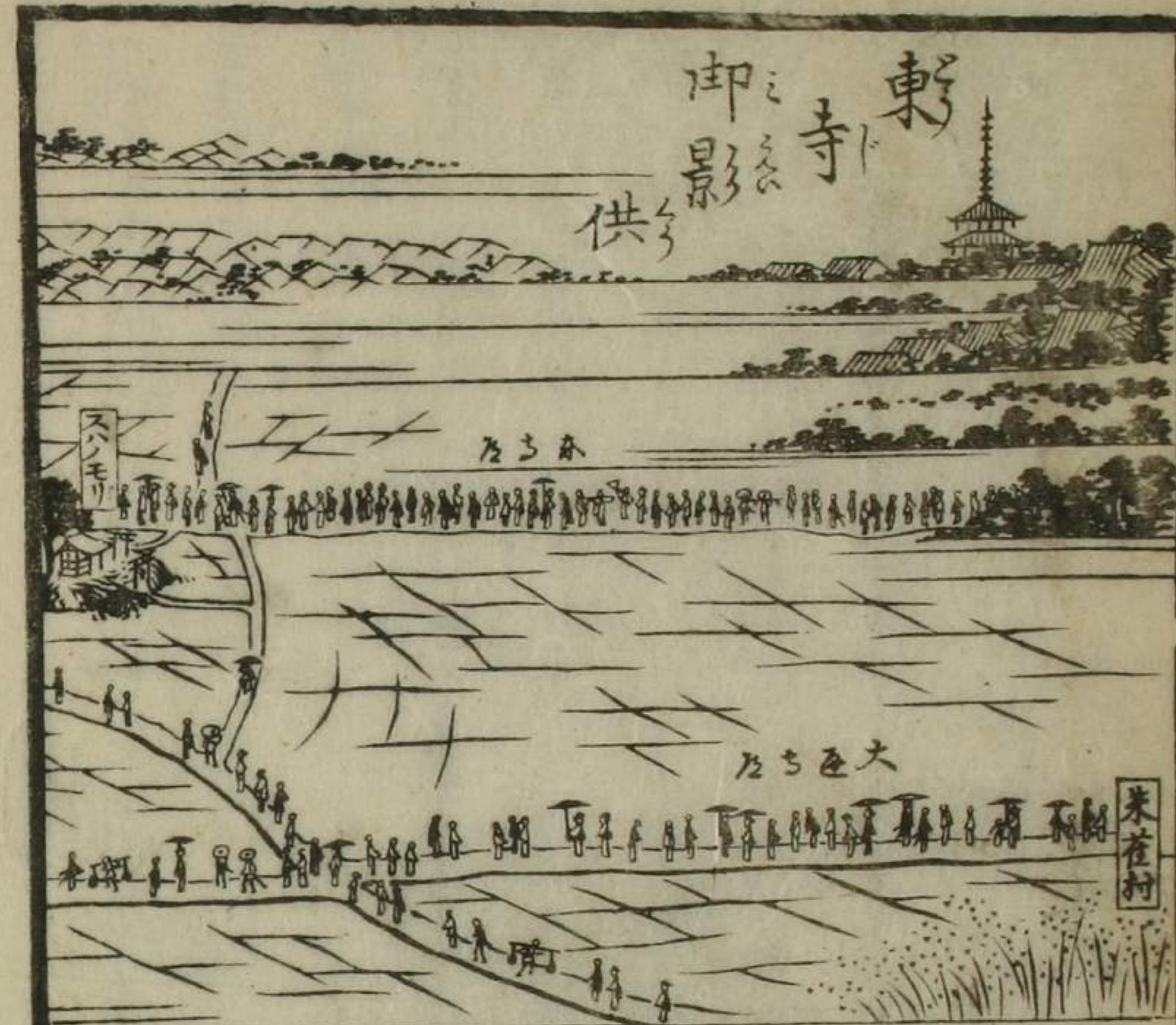
六日 山 野中辨天堂 活地鞍馬の道あり 京 草堂乃

園忌寺町竹居町無行取寺と号と奉る釈迦院西國  
三十三丈のと園基川園と人稱不詳と人と云い同布滿  
寺大玄

七日 山 矢立本林東山あらわ山寺すと亭  
六日 同 善光寺え政元辰刻坐ゆる有りは善宗  
同 海光寺觀音懺法持傳國行忍院すあり同 大雄寺  
觀音懺法日少武庫院すあり磨尼山と号と江 清水堂  
之ノ山寺三面山を森萬寺の本堂と海居山と號くも  
珍然後成竹林と称す未而立年と和 鳥人善宗懺供  
棲庵國明石太郎父余あらを神拂す人毛の美社紙四十石



廿日 は 東寺御影供  
八條太官山の山腹があり  
弥勒山教王護國寺又金光明天王教王護國寺と云ふ  
寺領一千三百石の法大師の像  
と安どあ附入定の日弘法が  
送名乞名へ空海姓の作納氏



十九日 山 沖涼寺般迦葉  
御身拭已別會と圓應と毘盧  
白巾と絆て善惡と拭拭する  
同 天童寺鬼子母鬼下宿  
城ふあり 同 二尊院西山  
新嘗城あり火食をす  
阿釋迦持ちくらべキモチ  
陀羅迦ニモチ百十九石  
嵯峨城信和二帝北離れ  
とまほすと人固え太附小

僧侶の入又ハ同る母ハ源氏承和二年三月廿一日紀尼寺也  
山入定也

佛敎供や人の向も守般塔 ち根  
少新供やアリテ新光は教の山 之火  
少新供や羽織もあらうとおまえ 凡全

(日) 洛西仁和寺御室御殿御絆足ノ行者 (日) 高雄山女人  
高神と作モ女人禁 (日) 西園今里村乙卯寺八幡善慶ム法  
大師合掌の像用帳 (日) 洛東脇積院御敎供 (日) 東山若  
山寺用帳 (日) 鳥原あまの山中あり (日) 佐古互内  
新開帳 (江) 二年後正覚院ム法大師佛敎供大師肖像四

十二歳の像寺千石 (江) 永代寺山用你門不あり  
(記) 高神山御敎供紀伊國作於此あり (日) 法大師入定の  
廟あり (金剛峯寺) 一萬千七百石 (後) 七千石  
七十石 (和) 十輪院御敎供南極山有 (日) 国基ム法大師石  
の山堂ふ石比院と作筆 (奥) 於前不經  
(世) 京後少路新町大原社參  
(世) (日) 天王寺今室の御神絆足ノ行者 二丁度新後  
新構土官の (丹) 大原指丹波國作於此あり (金) 伊弉  
諾子伊弉諾子天照大神體氣也  
(五日) 山山科兩奉斎寺蓮如公取今月 (日) 北山百升米をめ

月ニテ懶矣活化疾るのをふあり

和敢志寺文殊去直教ふわう寺飯三千石年子太古文殊  
因基親賢僧山の作庵寺小大塔宮の医とうひく大御君  
經乃い松今ふみど

月奥福寺中院風文殊今長光帝去

長門赤阿院寺文殊今長光帝去

廿六日京常徳院殿是利義尚公忌相國寺そ初之

廿七日山赤山方除れ考今明日

廿八日山比叡山そ今日山王坐の神と成

卅月辛未晦魔堂の夜あ普賢象のとく喫坐時枝と切

く膳ふがぞりら三石余の資料と筋とりて十月のる



わソク人呼ふと大令序

月九

普賢象のさく八千瓣そ  
五六輪つゝや本密そ貼玉  
長くねて本紙あがたば  
花り葉ふみ二すう云わ  
五六の長そ  
十五て花ゆく  
十五て葉二つと  
葉と鼻  
葉と鼻  
はきかく象鼻  
出處のえとく  
普賢象と  
名解

融通誦供念佛とある種の法徳をとす其体坐生の大  
会弘法也。如く生生れねのまゝまことに振る。是の文からて  
如輪上人ゆゑて行むる堂へ千車の丸蓮華堂寺の南もあり。此  
明山院接寺と号す寺は七石七斗。主として家から奉る。  
瑞應王の像の開基定朝の作中興ハ定覺上人さう。

年中行事卷二

4年 6月

融通漏泄會佛をもる種々の仪とす其体全生の大  
会徳みやく 也一生成れ故人のゆきとく極とひこ  
當寺の狂言へねとりすくもとす 且の文のれ  
如輪とくわく行とく堂へ千本の北蓮華臺寺の南ふあり是  
明山に接寺と号す寺代七石七斗 まこと家なり奉る  
瑞應王の像の開基定朝の作中興ハ定覺上人さう

年中行來事二絆

